

自動車部品の耐久性能

1. 過去10年間における交換部品の耐久性能の変化 第4回検討会資料と同じ。

○自動車メーカーによると、ほとんどの交換部品は、過去10年間、耐久性能が変化していない。

図表 1 過去10年間における交換部品の耐久性能の変化(乗用車)

部品名	乗用車(メーカー8社)	
	耐久性能を向上	耐久性能変化無し
ホイールシリンダのピストンカップ/ブーツ	-	8社
マスタシリンダのピストンカップ/ブーツ	1社	7社
キャリパのピストンシール/ブーツ	-	8社
ディスクブレーキのパッド	-	8社
ドラムブレーキのライニング	-	8社
ブレーキフルード	-	8社
ファンベルト	1社	7社
オイルエレメント	1社	7社
クーラント(LLC)	2社	6社
ドライブシャフトブーツ	3社	5社
マフラ	1社	7社
ワイパーブレード	-	8社
パワーステアリングベルト	1社	7社
タイミングベルト	2社	6社
タイヤ	-	8社
ボールジョイントブーツ	-	8社
エアクリーナーエレメント	-	8社
点火プラグ	3社	5社

図表 2 過去10年間における交換部品の耐久性能の変化(大型トラック)

部品名	大型トラック(国内メーカー4社)	
	耐久性能を向上	耐久性能変化無し
ドラムブレーキのライニング	—	4社
エアバルブ類のゴム部品	—	4社
ブレーキチャンバ(ダイヤフラム)	—	4社
ファンベルト	—	4社
オイルエレメント	1社	3社
クーラント(LLC)	1社	3社
マフラ	1社	3社
ワイパーブレード	—	4社

2. 乗用車と二輪車の交換部品の耐久性能の比較

○乗用車と二輪車の交換部品の耐久性能はほとんど同じである。

図表 3 乗用車と二輪車の交換部品の耐久性能の比較

(国内メーカーA社の推奨交換時期)

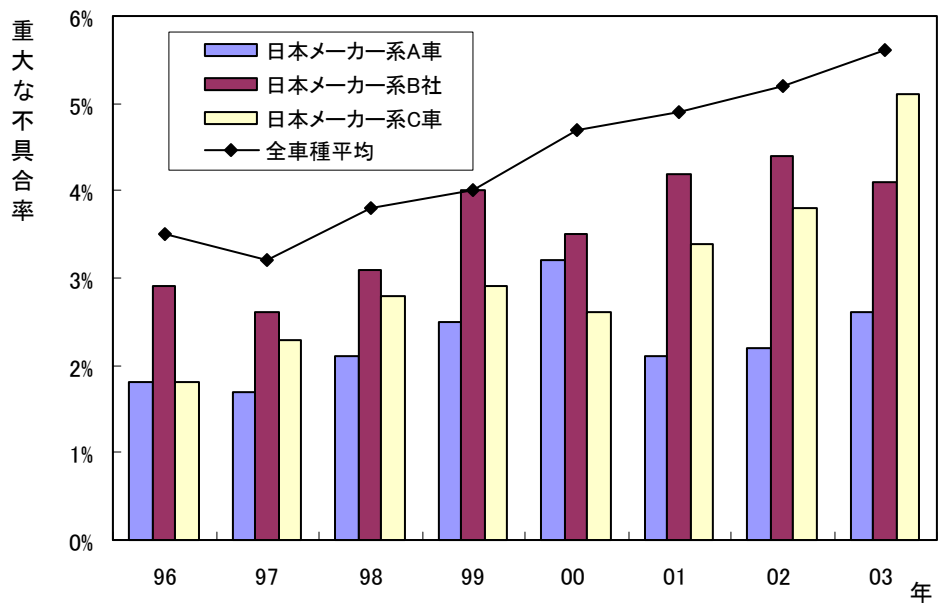
部品名	乗用車	二輪車
マスタシリンダのピストンカップ/ブーツ	設定なし 3～5年(推定)	4年
マスタシリンダのピストンシール/ブーツ	設定なし 3～5年(推定)	4年
エンジンオイル	1万 km または 12ヶ月	1万 km
クーラント(LLC)	2～6年	4年
ブレーキフルード	初回3年以降2年	2年
オイルエレメント	2万 km	2万 km
エアクリーナーエレメント	5万 km	4万 km
ディスクブレーキのパッド	使用状況により異なる	使用状況により異なる
ドラムブレーキのライニング	使用状況により異なる	使用状況により異なる
タイヤ	使用状況により異なる	使用状況により異なる
点火プラグ	使用状況により異なる	使用状況により異なる

3. 欧州における日本車の不具合率の推移

第4回検討会資料と同じ。

○ドイツ国内の自動車検査における代表的な日本車の重大な不具合率については増加してきていることから、日本車の部品・装置の耐久性能が向上したとは考えにくい。

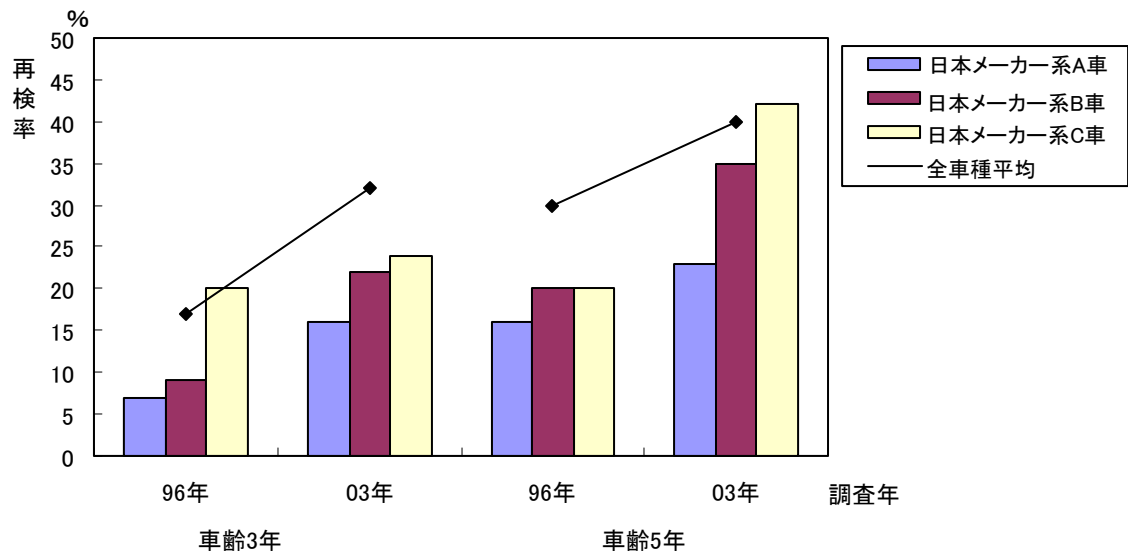
図表 4 ドイツTÜVの自動車検査における重大な不具合率の推移



資料:TÜV auto report 1997-2004

※重大な不具合: 交通安全を損ねる欠陥であり、すぐに整備が必要な状態。整備後に再検査を受検する必要がある。

図表 5 スウェーデン BILPROVNINGEN の自動車検査における再検率の推移



資料: 'Cars Strong&Weakpoints BILPROVNINGEN'

3. 近年における欧米車の点検内容の変化

第4回検討会資料と同じ。

○欧米車の点検内容は、全体として大きな変化がないことから、自動車の部品の耐久性は改善されていないと考えられる。

図表 6 「米国 A 社製乗用車」の 1996 年と 2003 年の点検内容の変化

	点検内容の変化について ^{注)}			変化有りの場合の変化内容
	強化	変化なし	緩和	
シートベルト		○		
内外の灯火類		○		
安全警告灯	○			点検項目として追加
ウィンドウオッシャー		○		
ワイパー機能		○		
エンジンオイル、オイルフィルター		○		
エンジンエアフィルター		○		
エアフィルターマインダー	○			点検時期の明示
燃料フィルター	○			交換項目として追加
点火プラグ		○		
エンジンクーラント		○		
クーラントシステム、ホース、及び止め金		○		
アクセサリドライブベルト			○	点検時期の緩和
クラッチ		○		
タイヤ		○		
タイヤの空気圧		○		
スペアタイヤの空気圧		○		
ホイールのがた	○			点検時期の明示
ブレーキパッド/シュー/ローター/ドラム、ブレーキワイヤー、ホース、駐車ブレーキ機構		—		
ブレーキ液		○		
パワステ液		○		
ステアリング連結部、サスペンション、ドライブシャフト		○		点検時期の明示
トランスミッション装置の潤滑			○	項目の廃止
オートマチックトランスミッションオイルの液量		○		
排気システム・遮蔽版		○		
PCVバルブ			○	交換時期の緩和

注：・強化：2003 年が 1996 年に比較して強化されている項目
 ・変化なし：変化なしもしくは変化が軽微(点検時期の明示等)な項目
 ・緩和：2003 年が 1996 年に比較して緩和されている項目

資料：各社サービスマニュアルより作成

図表 7 「米国 B 社製乗用車」の 1993 年と 2003 年の点検内容の変化

	点検内容の変化について ^{注)}			変化有りの場合の変化内容
	強化	変化なし	緩和	
エンジンオイル		○		
エアクリーナメント		○		
エンジン冷却システムのドレーン・洗浄・補給。冷却システムのプレッシャテスト、ホースの損傷確認		○		
エンジン冷却液の液量		○		
アクセサリドライブベルト			○	点検時期の緩和
点火プラグ		○		
排気システム		○		
スタータスイッチ		○		
オートマチック(マニュアル)トランスミッションオイル/フィルタ		○		
タイヤ		○		
タイヤの空気圧		○		
リアアクスル		○		
シートベルト及びエアバッグ		○		
ワイパーブレード		○		
ボディ各部の潤滑		○		
オートマチックシフトロックシステム		○		
イグニッションオートマチックトランスミッションロックチェック		○		
パーキングブレーキとオートマチックトランスミッションパークメカニズム		○		
ブレーキシステム		○		
ウインドウウォシャーの液量		○		
ステアリングコラムロック		○		
ステアリング、サスペンション		○		
燃料タンク、キャップ、配管		○		

注：・強化：2003 年が 1993 年に比較して強化されている項目
 ・変化なし：変化なしもしくは変化が軽微(点検時期の明示等)な項目
 ・緩和：2003 年が 1993 年に比較して緩和されている項目

資料：各社サービスマニュアルより作成

図表 8 「欧州 C 社製乗用車」の 1994 年と 2000 年の点検内容の変化

	点検内容の変化について ^{注)}			変化有りの場合の変化内容
	強化	変化なし	緩和	
エンジンオイル・フィルター		○		
冷却系統（冷却水の点検、補充）		○		
パワーステアリング		○		
ステアリングシールドの緩み・破損		○		
自己診断システム(フォルトメモリーの点検)		○		
排気システム（排気漏れの点検）		○		
エンジン（漏れの点検）		○		
エンジン回転数		○		
エアフィルター		○		
点火プラグ		○		
バッテリー		○		
カム軸駆動用リブドVベルト		○		
Vベルト		○		
ファンベルト		○		
エアバッグ		○		
ダスト・花粉フィルター		○		
ブレーキパッド		○		
ブレーキ装置の緩み、破損		○		
ブレーキ液		○		
ギア、車軸、操輪装置の緩み・破損		○		
トランスミッション及び駆動車軸のオイル		○		
オートマチックトランスミッション液			○	交換項目から点検項目へ
ホイール・タイヤ		○		
ドライブシャフト		○		
試運転		○		
床下保護の破損状況		○		
ヘッドライト調整		○		
リヤライト、後退灯		○		
ワイパーブレード、ウィンドウワッシャー		○		

注：・強化：2000 年が 1994 年に比較して強化されている項目
 ・変化なし：変化なしもしくは変化が軽微(点検時期の明示等)な項目
 ・緩和：2000 年が 1994 年に比較して緩和されている項目
 資料：各社サービスマニュアルより作成